発行日 2024年11月20日

Chance for Children

能登半島地震で被災した子どもの学び
実態調査

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

目次

調査結果サマリー・・・・・・・・・・・P.3

1. 調査概要・・・・・・・・・・・・・P.4

2. 回答者属性・・・・・・・・・・・・・P.7

3. アンケート調査結果・・・・・・・・・P.12

3-1.震災後に減少した教育機会・・・・・・・P.13

3-2.子どもに関する困りごと・・・・・・・・P.17

3-3.助成金の利用希望先・・・・・・・・・・P.21

4. ヒアリング調査結果・・・・・・・・・P.25

参考:保護者の声・・・・・・・・・・・P.30

付録:アンケート設問・・・・・・・・・P.34

© Chance for Children

調査結果サマリー

Chance for Children

1．9割超の家庭で子どもの教育機会が減少した

- ✓ 震災後、学校内外における、子どもたちの様々な教育機会（学習機会・体験機会）が減少した。いずれかの教育機会が減少した家庭は96.8%にのぼった。
- ✓ 背景として、地域の習い事教室や学習塾の閉鎖、学校設備の被災や、転居による部活への参加者減など、地域の教育資源への影響に関する声などが聞かれた。

2．約7割の家庭が教育資金に関する困りごとを抱えている

- ✓ 子どもに関する困りごととして、「子どもの教育資金」と回答した家庭が69.8%にのぼり、最多となった。教育費のかかる中高生がいる家庭や、震災前から経済基盤がぜい弱であることが多いひとり親家庭においてはその傾向が顕著だった。
- ✓ 背景として、被災による収入減少や、家屋の解体・修繕費用により子どもの教育資金の確保が難しいという声が聞かれた。

3．被災家庭の状況やニーズは複雑化している

- ✓ 転居の有無や子どもの学校段階等により、被災家庭の状況は複雑化している。例えば、転居した家庭では、学校外での体験機会が減少した割合が高かった一方、転居していない家庭では、学校内での教育機会が減少した割合も高かった。
- ✓ また、学校段階別にみると、中高生がいる家庭は、小学生がいる家庭と比較して、学習機会の減少が顕著であり、進学や学力といった学習関連の困りごとが多い傾向が見られた。

© Chance for Children

1．調査概要

調査概要

Chance for Children

✓ 令和6年能登半島地震（以下「能登半島地震」）における被災地の現状および被災された方々の教育（学習・体験）に関する困りごと等を把握するために、アンケート調査およびヒアリング調査を実施した。

アンケート調査

対象者	能登半島地震で被災した子どもを支援することを目的とした当法人の教育支援事業（助成金）に申込んだ家庭の保護者
調査期間	2024年4月15日～6月28日
調査方法	WEBアンケートフォーム
有効回答数	252件（子どもの人数は449名）
主な質問項目	・現在の住まい、転居の有無、住家被害 ・震災後の教育機会の状況 ・震災後の困りごと ・助成金の利用希望先　　など

チャンス・フォー・チルドレン（CFC）は、令和6年能登半島地震への緊急支援として、被災した小学校1年生から高校3年生の保護者であり、かつ、住家の全壊もしくは半壊、または、世帯の主たる生計維持者が「死亡」もしくは「行方不明」の方を対象に学校外活動費（部活動の費用を含む）を助成した。本アンケート調査は、助成金の提供を行う前（申請段階）に実施した。

© Chance for Children

調査概要

Chance for Children

ヒアリング調査

対象者	能登半島地震で被災した子どもを支援することを目的とした当法人の教育支援事業（助成金）に申込んだ家庭の保護者
調査期間	2024年7月3日～7月30日
調査方法	電話によるヒアリング
有効回答数	22件
主な 質問項目	・助成金を知ったきっかけ ・助成金の利用希望先を選んだ理由 ・被災後の暮らしぶりの変化 ・子どもの学校・部活動・学校外教育の様子 ・転居の背景　　など

© Chance for Children

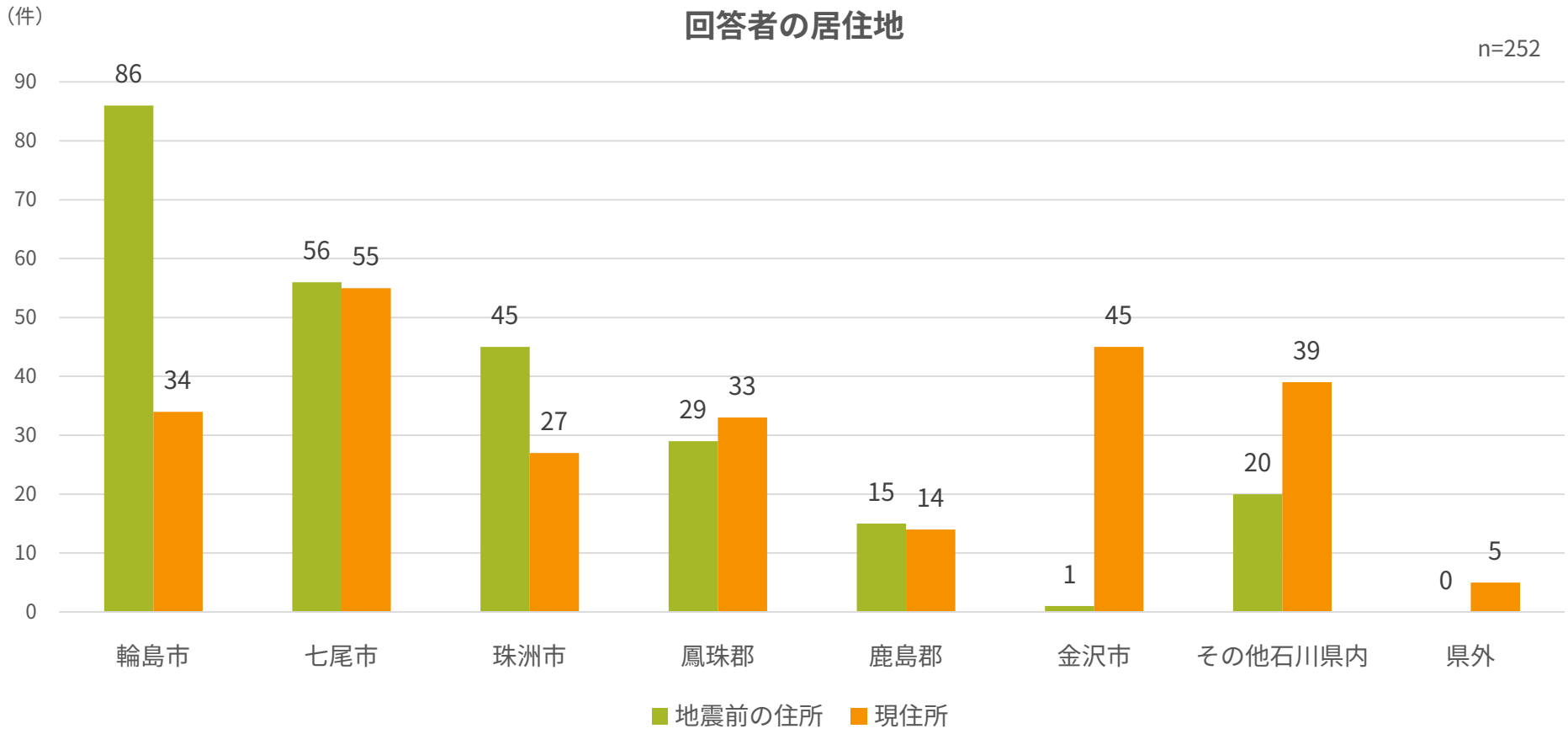
2．回答者属性

（アンケート調査）

居住地

Chance for Children

- ✓ 地震前に奥能登（輪島市、珠洲市、鳳珠郡）に居住していた家庭が約6割（160／252件）を占めた。
- ✓ 震災後の転居先としては金沢市が多い。



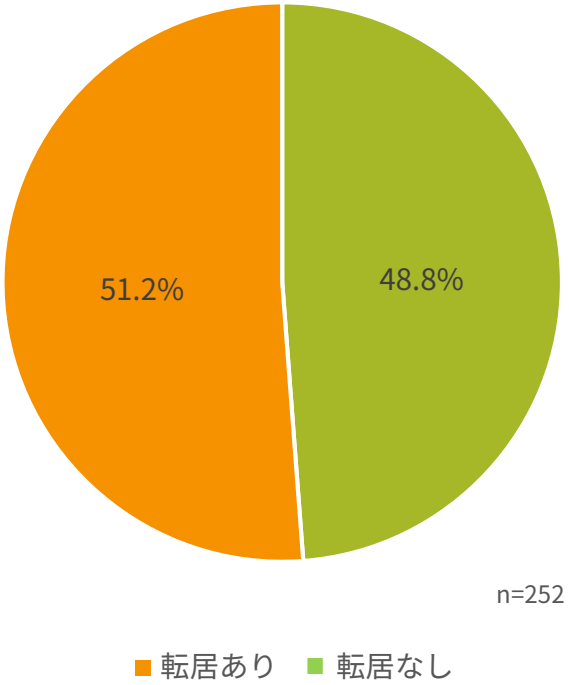
© Chance for Children

居住地（転居の有無）

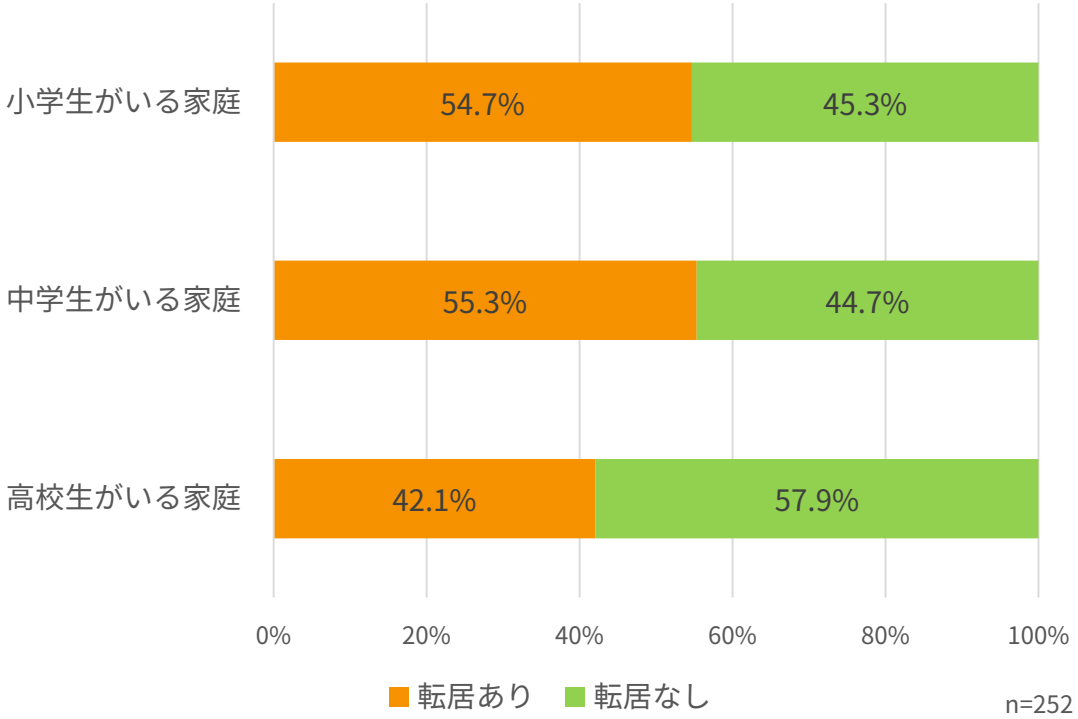
Chance for Children

- ✓ 回答者のうち、転居した家庭は約半数（51.2%）を占めた。
- ✓ 学校段階別にみると、高校生がいる家庭は比較的転居した家庭が少なかった（42.1%）。

全体



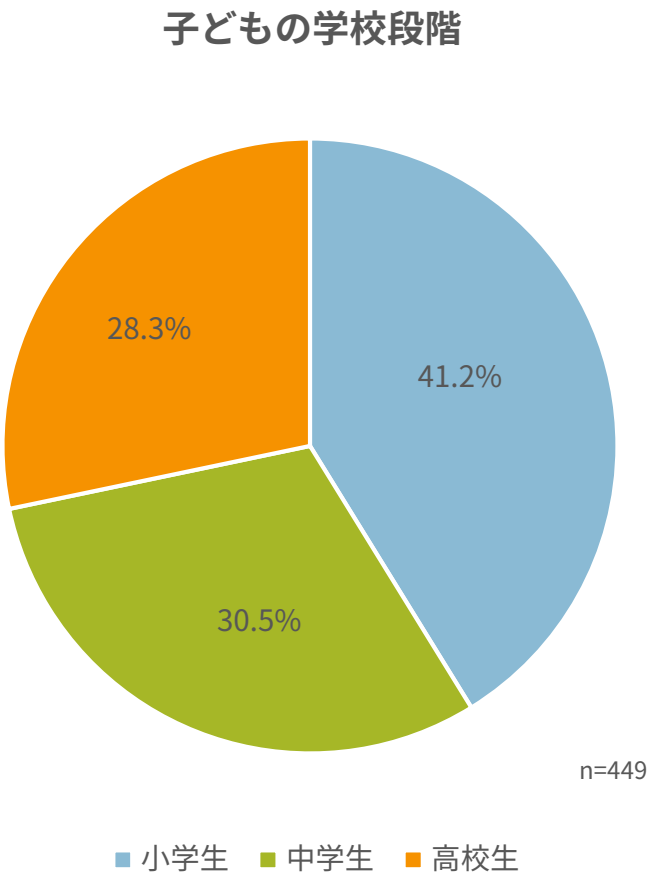
学校段階別



※アンケートにて「被災当時の住所」が「現住所と異なる」と答えた方を「転居あり」とカウントした。
※学校段階別のグラフでは、一家庭に異なる学校段階の子どもがいる場合、重複してカウントされている。

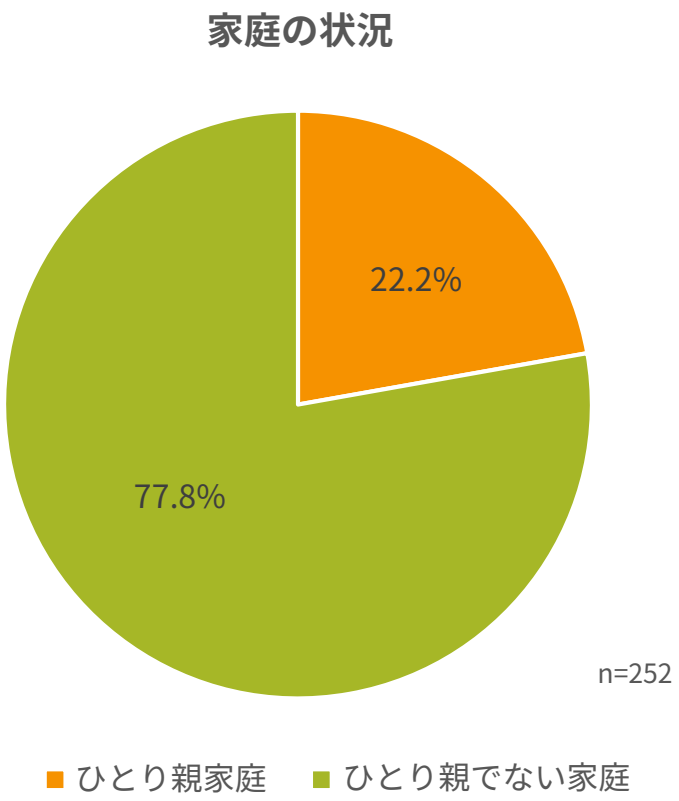
© Chance for Children

子どもの学校段階



© Chance for Children

家庭の状況



※本調査においては、父子と祖父母が同居、母子と祖父母が同居など多様な家庭の状況が明らかになっている。分析の簡便性を考慮し、父と母の両方と子が生計を共にしていない場合は、ひとり親家庭とカウントする。

© Chance for Children

3．アンケート調査結果

備考：
・回答者数は252件である。なお、学校段階別の集計では、一家庭に異なる学校段階の子どもがいる場合、重複してカウントされている。

・スペースの関係で、「 3-1. 震災後に減少した教育機会」「3-2.子どもに関する困りごと」「 3-3. 助成金の利用希望先」の選択肢は、簡易な表現に変えてグラフ化している（アンケート設問の原文は35ページ参照）。

・「3-3. 助成金の利用希望先」の選択肢について、「スポーツ（サッカー教室・水泳教室・ダンス教室など）」「文化活動（ピアノ教室・音楽教室・絵画芸術教室など）」「体験活動（野外活動・社会体験など）」いずれかに回答したケースを「習い事等」として集計した。

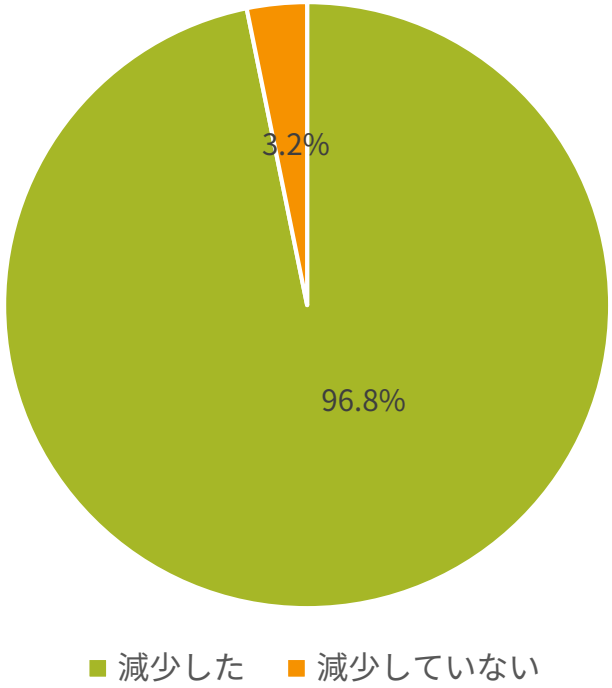
・「体験」には様々な定義が考えられるが、ここでは「学校行事」「部活動等」「習い事等」「地域行事等」「友人との遊び」として分析している。

3-1. 震災後に減少した教育機会（全体）

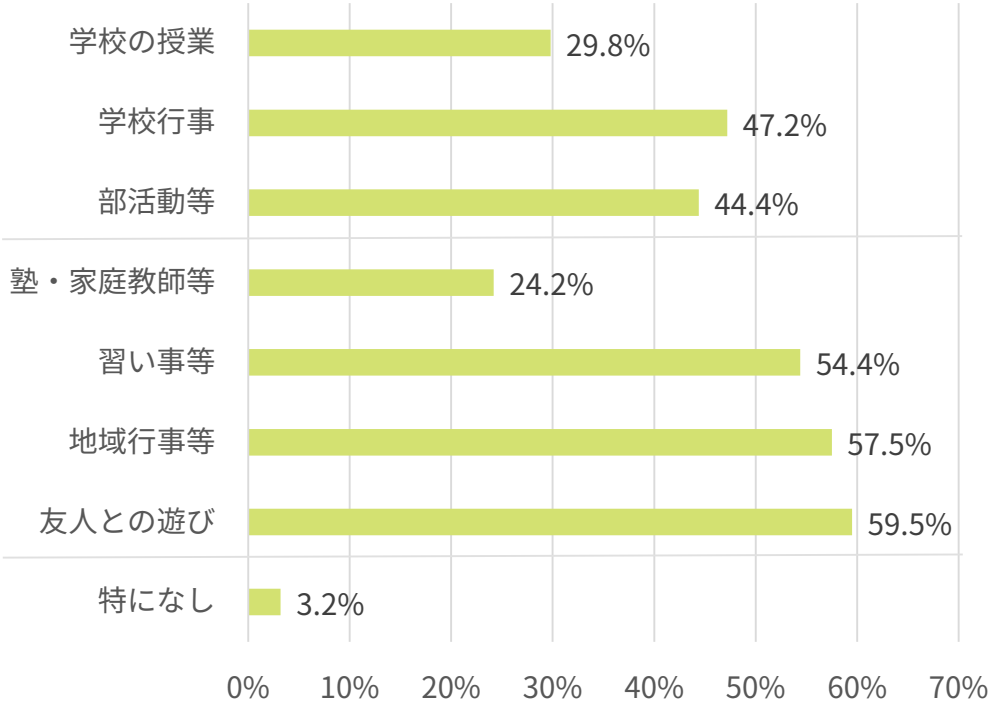
Chance for Children

✓ 震災後、学校内外における、子どもたちの様々な教育機会（学習機会・体験機会）が減少した。いずれかの教育機会が減少した家庭は96.8%にのぼった。

いずれかの子ども教育機会が減少した家庭の割合



お子様の教育機会について、震災以降減少したものを教えてください（複数回答）



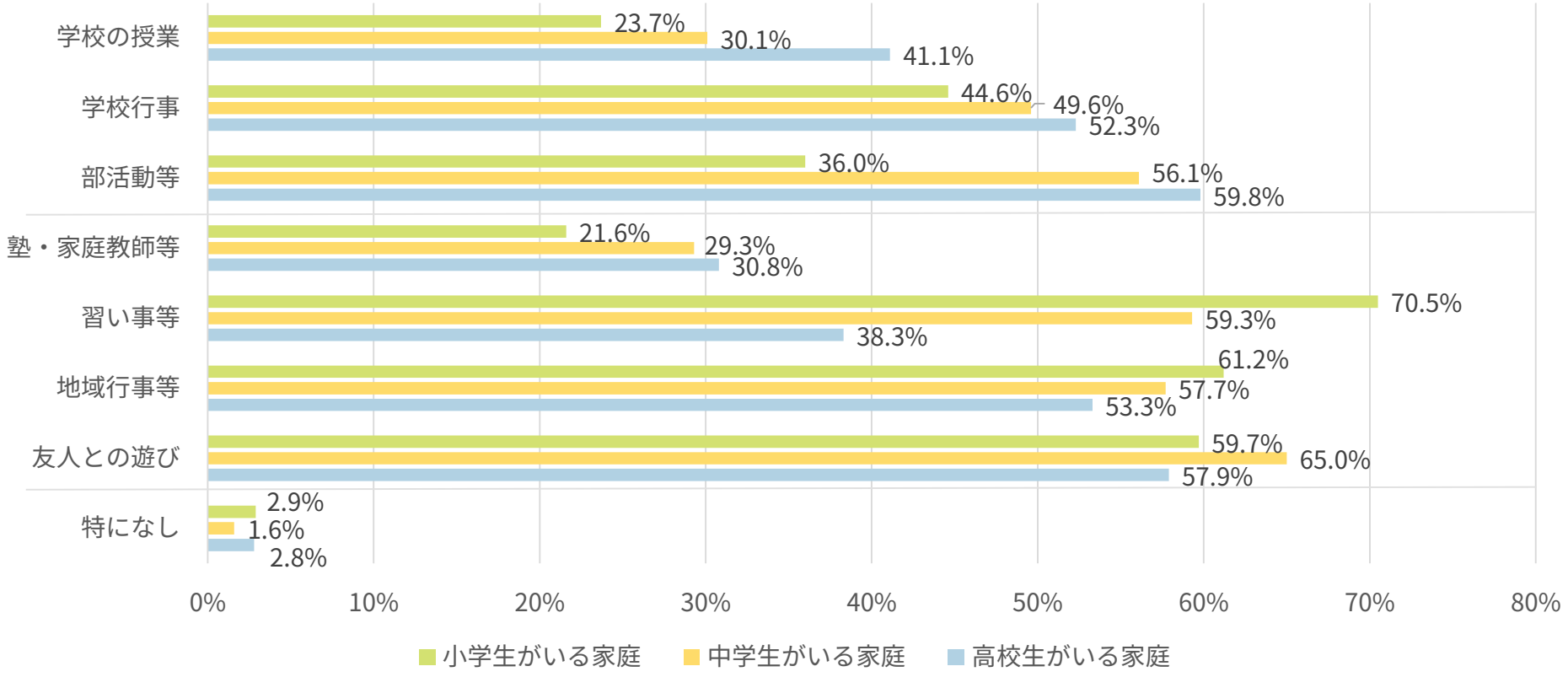
© Chance for Children

3-1. 震災後に減少した教育機会（子どもの学校段階別）

Chance for Children

- ✓ 子どもの学校段階別に比較すると、小学生がいる家庭では、学校外での体験機会（「習い事等」「地域行事等」）が減少した割合が高かった。
- ✓ 一方、中高生がいる家庭は、小学生がいる家庭より、学習機会（「学校の授業」「塾・家庭教師等」）や、学校内での体験機会（「学校行事」「部活動等」）が減少した割合が高かった。

お子様の教育機会について、震災以降減少したものを教えてください（複数回答）



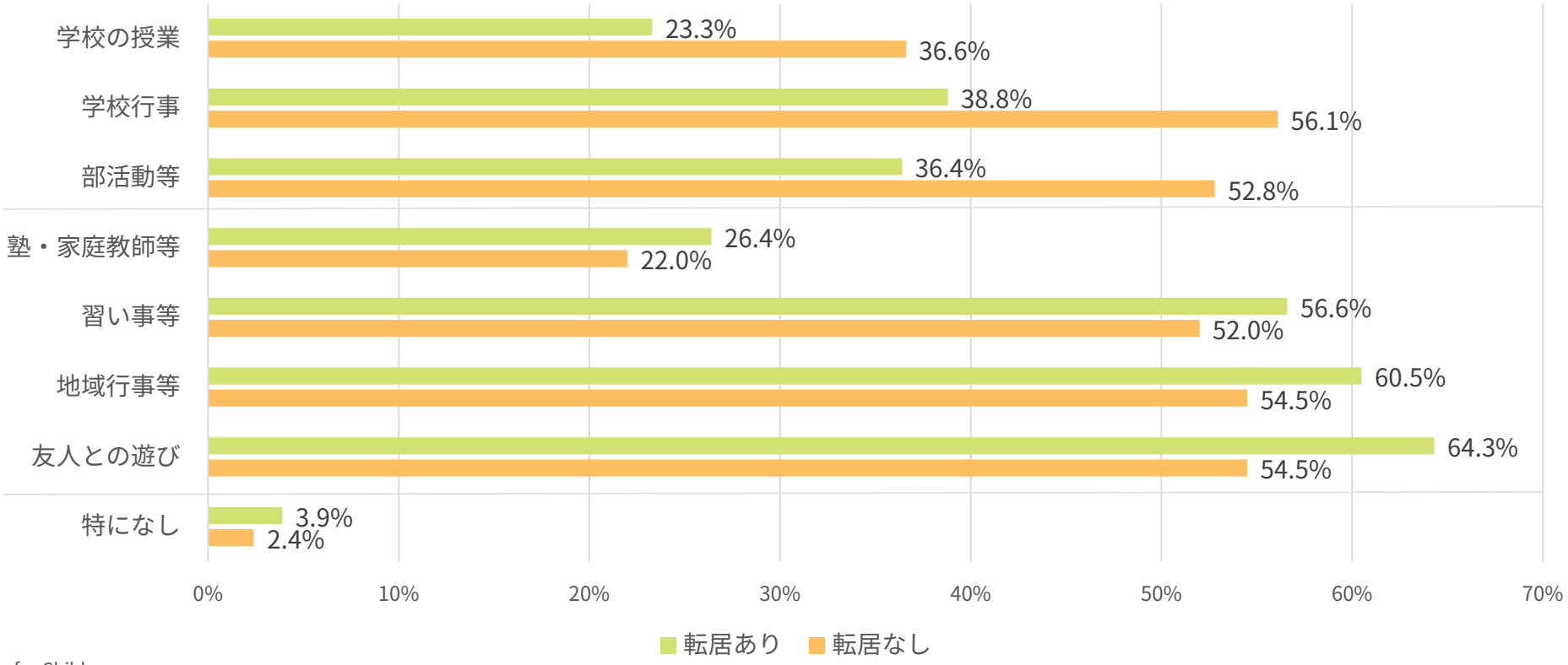
© Chance for Children

3-1. 震災後に減少した教育機会（転居の有無別）

Chance for Children

- ✓ 転居の有無で比較すると、転居した家庭では、学校外での体験機会（「習い事等」「地域行事等」「友人との遊び」）が減少した割合が高かった。
- ✓ 一方、転居していない家庭は、転居した家庭と比較して、学校内での教育機会（「学校の授業」「学校行事」「部活動等」）が減少した割合が高かった。

お子様の教育機会について、震災以降減少したものを教えてください（複数回答）

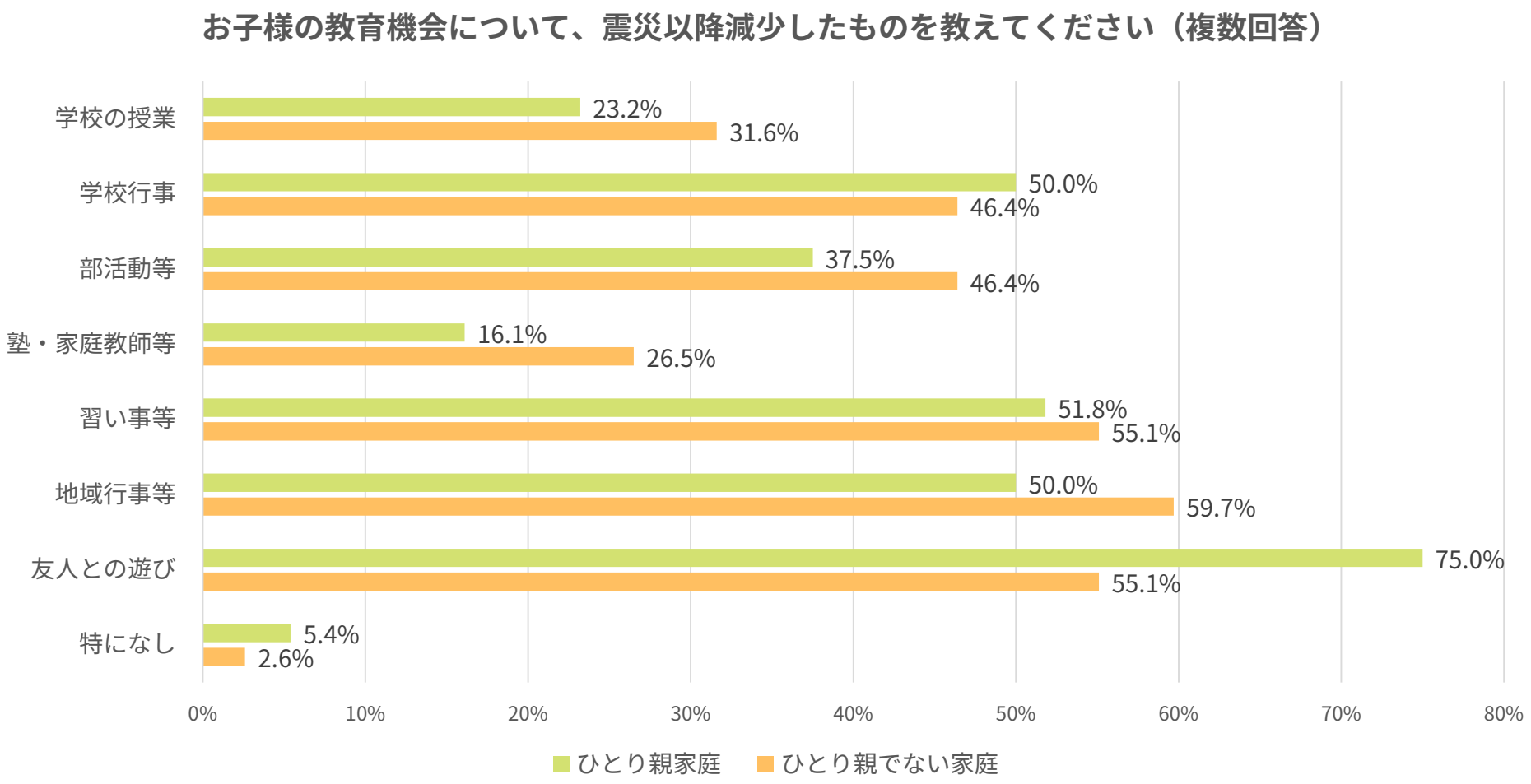


© Chance for Children

3-1. 震災後に減少した教育機会（家庭の状況別）

Chance for Children

✓ ひとり親家庭では、「友人との遊び」が減少した家庭が75.0%にのぼった。



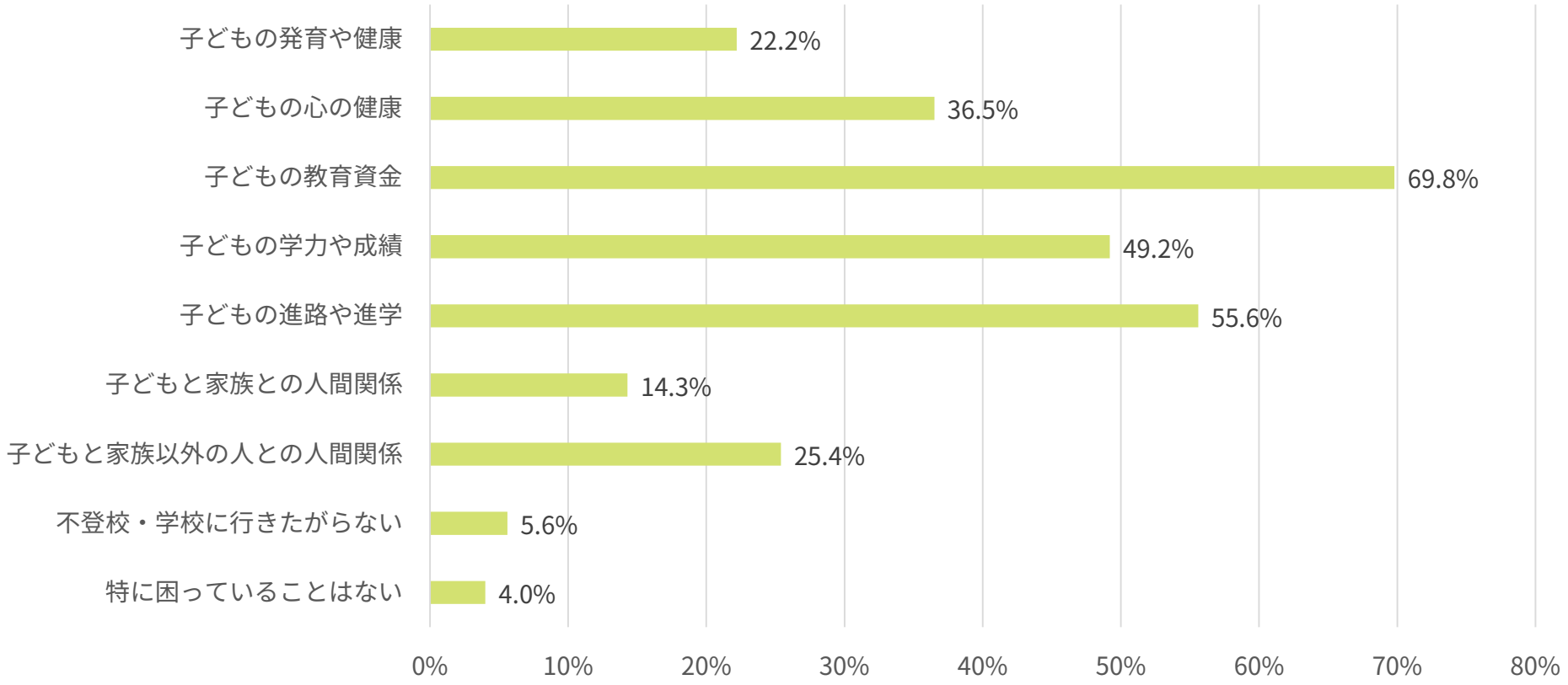
© Chance for Children

3-2. 子どもに関する困りごと（全体）

Chance for Children

✓ 子どもに関する困りごととして、「子どもの教育資金」と回答した家庭が69.8%にのぼり、最多となった。

震災以降に感じている、お子様についての困りごとがあれば教えてください（複数回答）



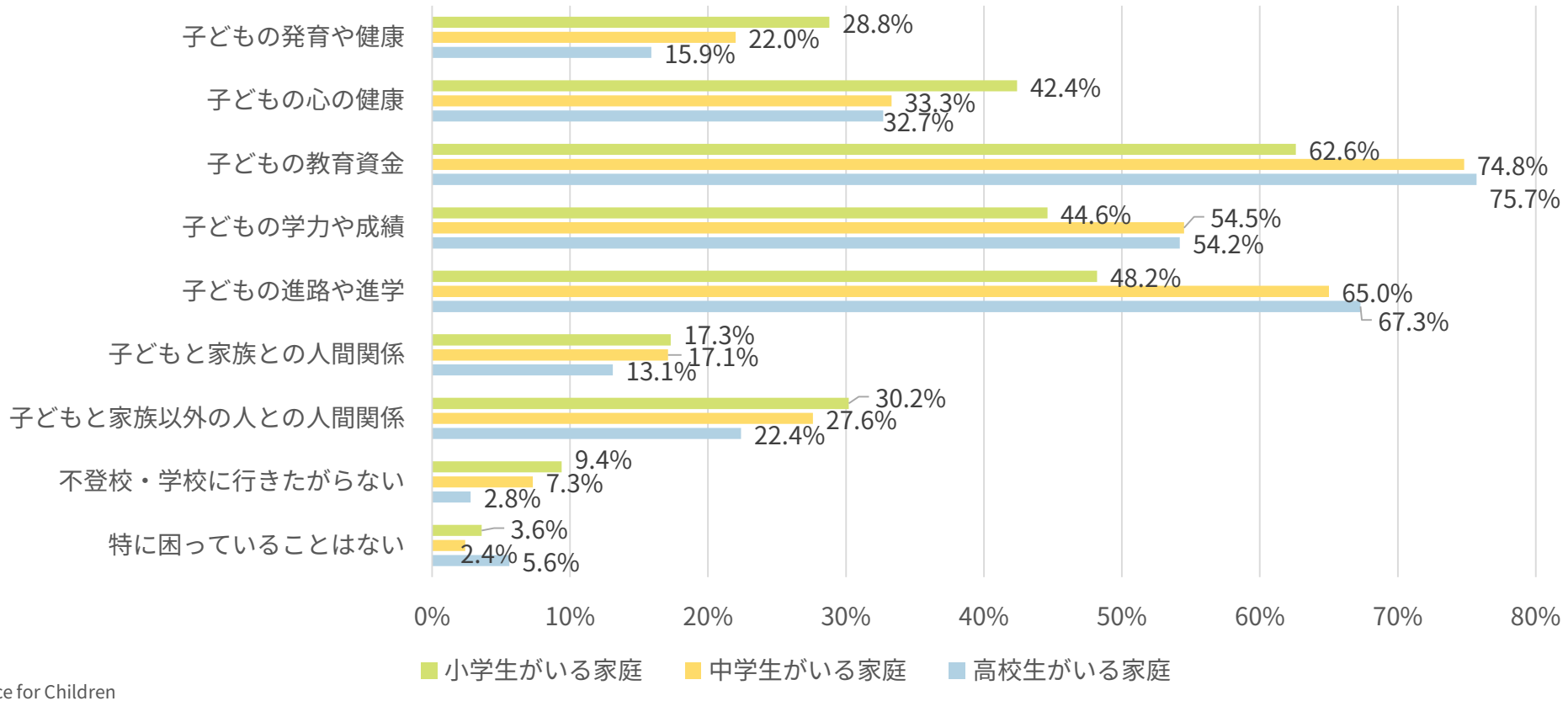
© Chance for Children

3-2. 子どもに関する困りごと（子どもの学校段階別）

Chance for Children

- ✓ いずれの学校段階でも「子どもの教育資金」を困りごととした割合が最も高い。中高生がいる家庭では、特にその懸念が強く、次いで「進路や進学」「学力や成績」への懸念が強い。
- ✓ 小学生がいる家庭は、中高生がいる家庭と比較して、「子どもの発育や健康」「子どもの心の健康」を困りごととした割合が高かった。

震災以降に感じている、お子様についての困りごとがあれば教えてください（複数回答）



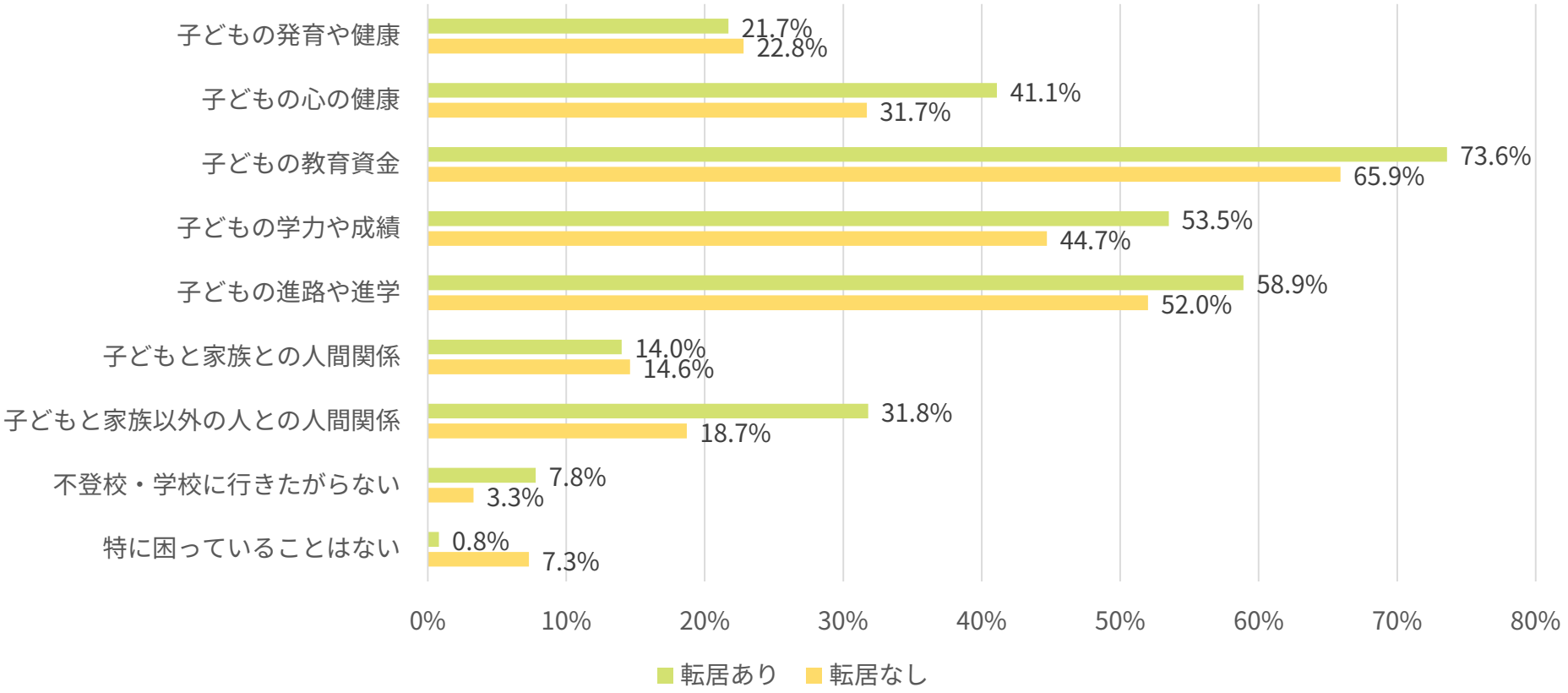
© Chance for Children

3-2. 子どもに関する困りごと（転居の有無別）

Chance for Children

- ✓ 転居の有無にかかわらず、「子どもの教育資金」を困りごととした割合が最も高い。
- ✓ 転居した家庭は、子どもに関する困りごとが比較的多岐にわたっていた。

震災以降に感じている、お子様についての困りごとがあれば教えてください（複数回答）



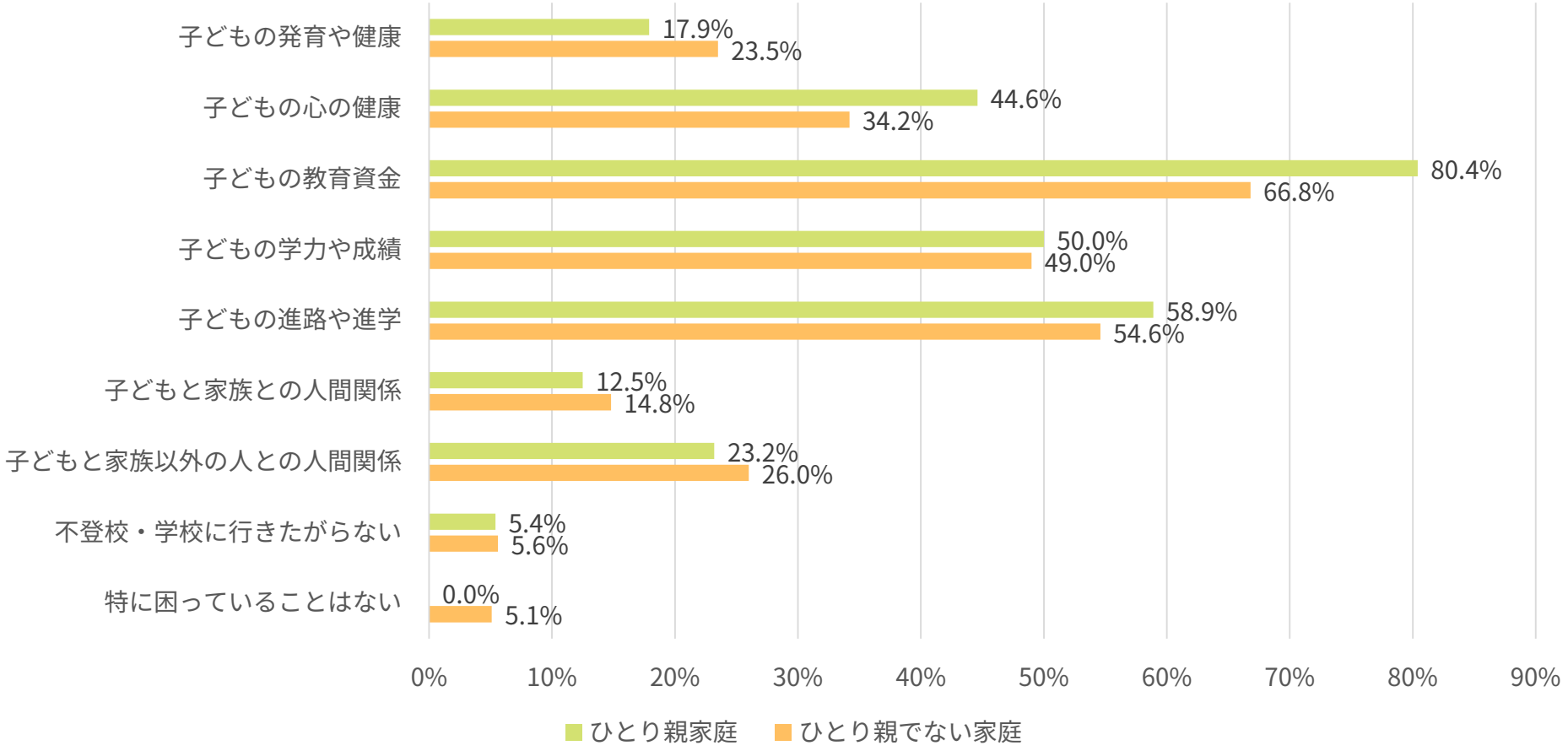
© Chance for Children

3-2. 子どもに関する困りごと（家庭の状況別）

Chance for Children

✓ ひとり親家庭は、「子どもの教育資金」を困りごととした家庭が80.4%にのぼった。

震災以降に感じている、お子様についての困りごとがあれば教えてください（複数回答）

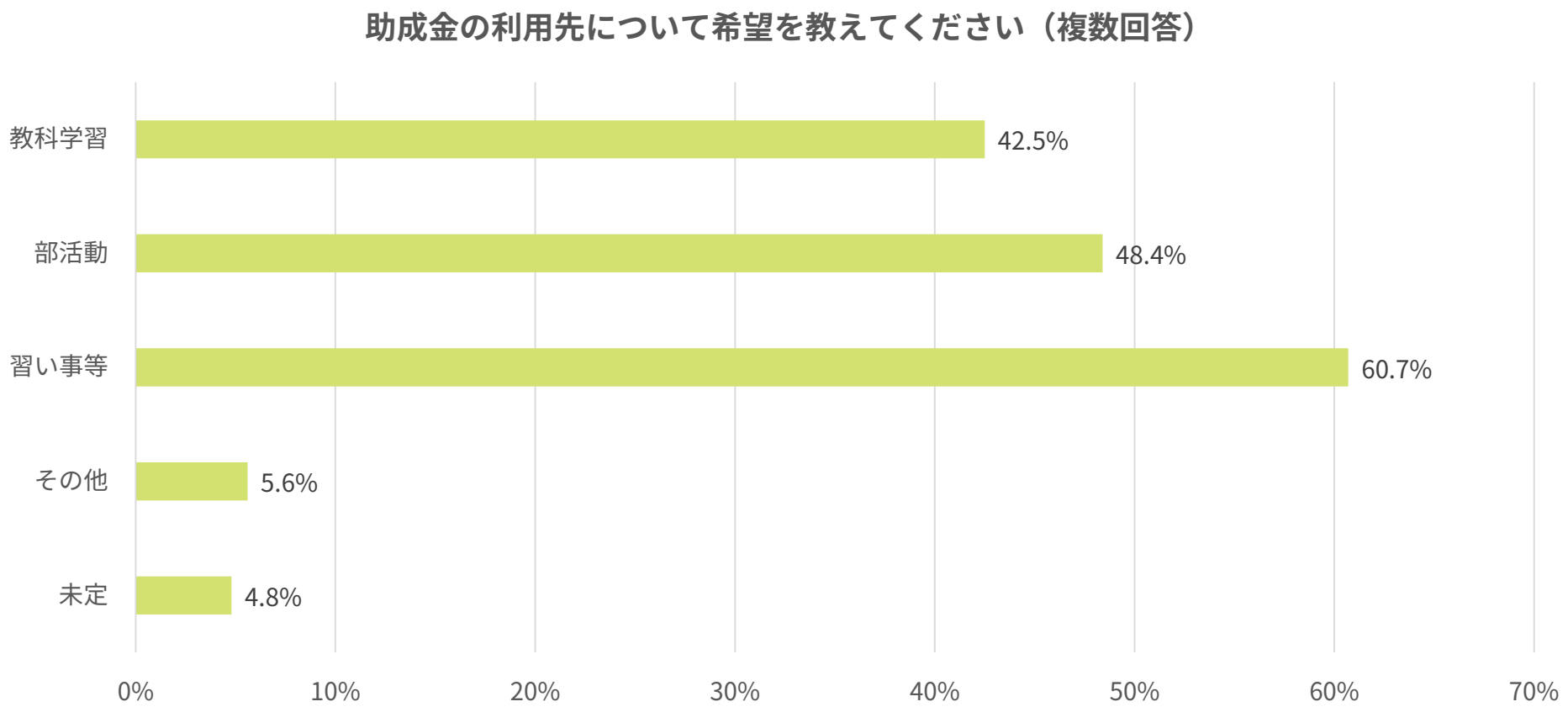


© Chance for Children

3-3. 助成金の利用希望先（全体）

Chance for Children

✓ 助成金の利用希望先は、「習い事等」（60.7%）が最も多く、次いで「部活動」（48.4%）、「教科学習」（42.5%）となった。



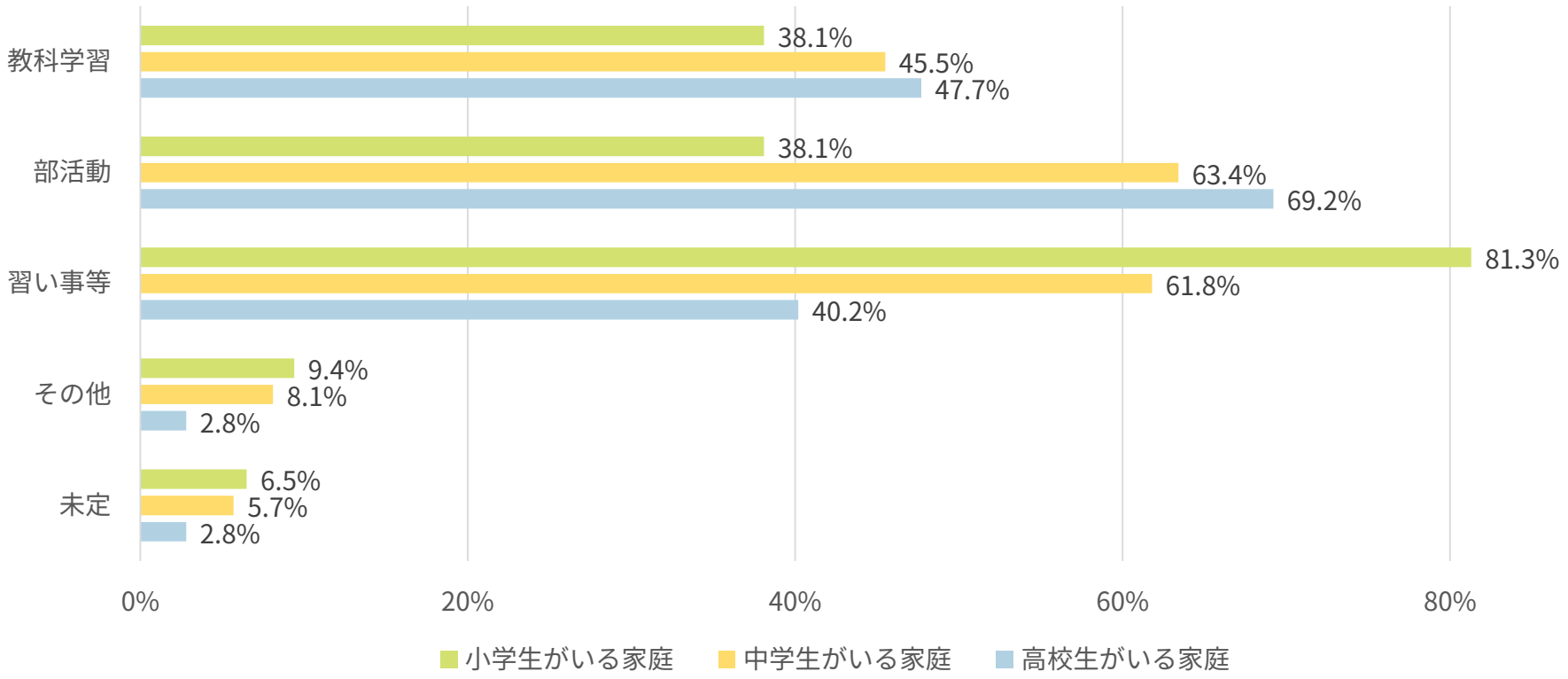
© Chance for Children

3-3. 助成金の利用希望先（学校段階別）

Chance for Children

- ✓ 子どもの学校段階別に比較すると、小学生がいる家庭では、「習い事等」を利用希望先とした割合が高かった。
- ✓ 一方、中高生がいる家庭では、「部活動」や「教科学習」を利用希望先とした割合が高かった。

助成金の利用先について希望を教えてください（複数回答）



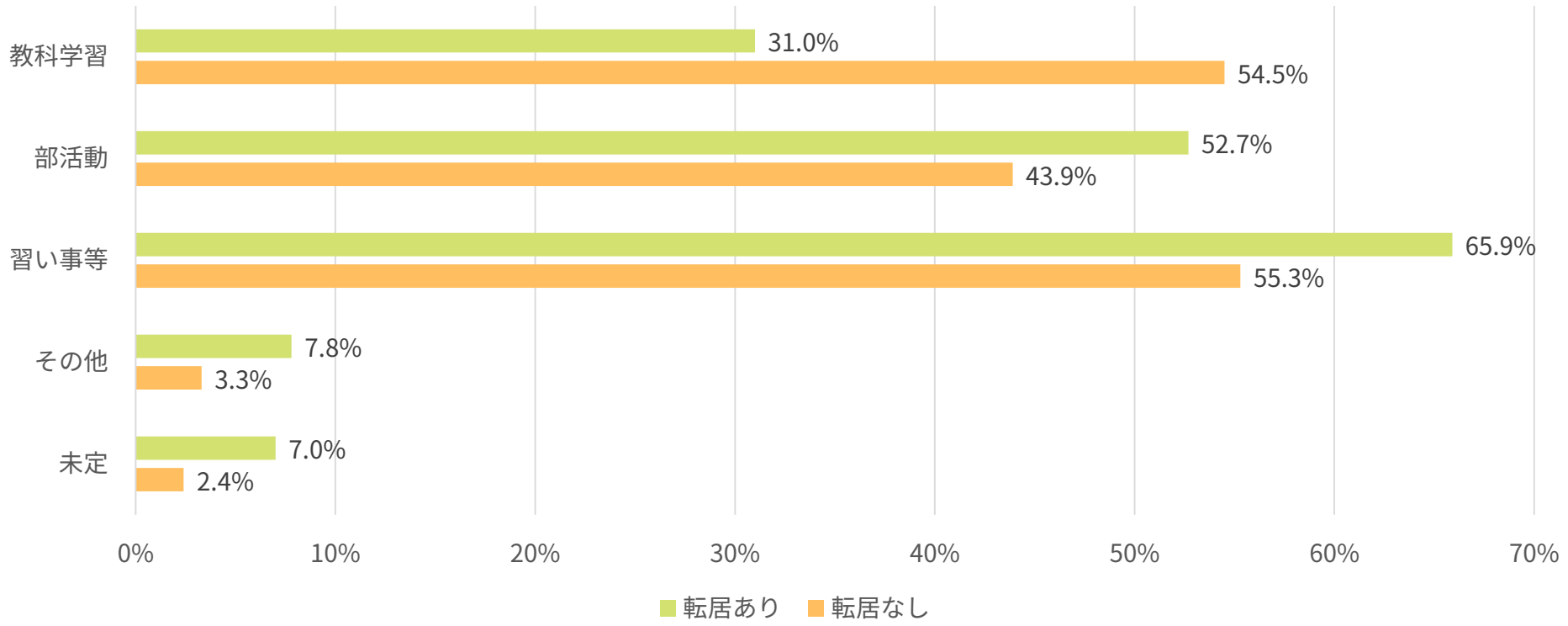
© Chance for Children

3-3. 助成金の利用希望先（転居の有無別）

Chance for Children

- ✓ 転居の有無別で比較すると、転居した家庭は、「部活動」「習い事等」を利用希望先とした割合が高かった。
- ✓ 一方、転居していない家庭は、転居した家庭と比較して、「教科学習」を利用希望先として選んだ割合が高かった。

助成金の利用先について希望を教えてください（複数回答）

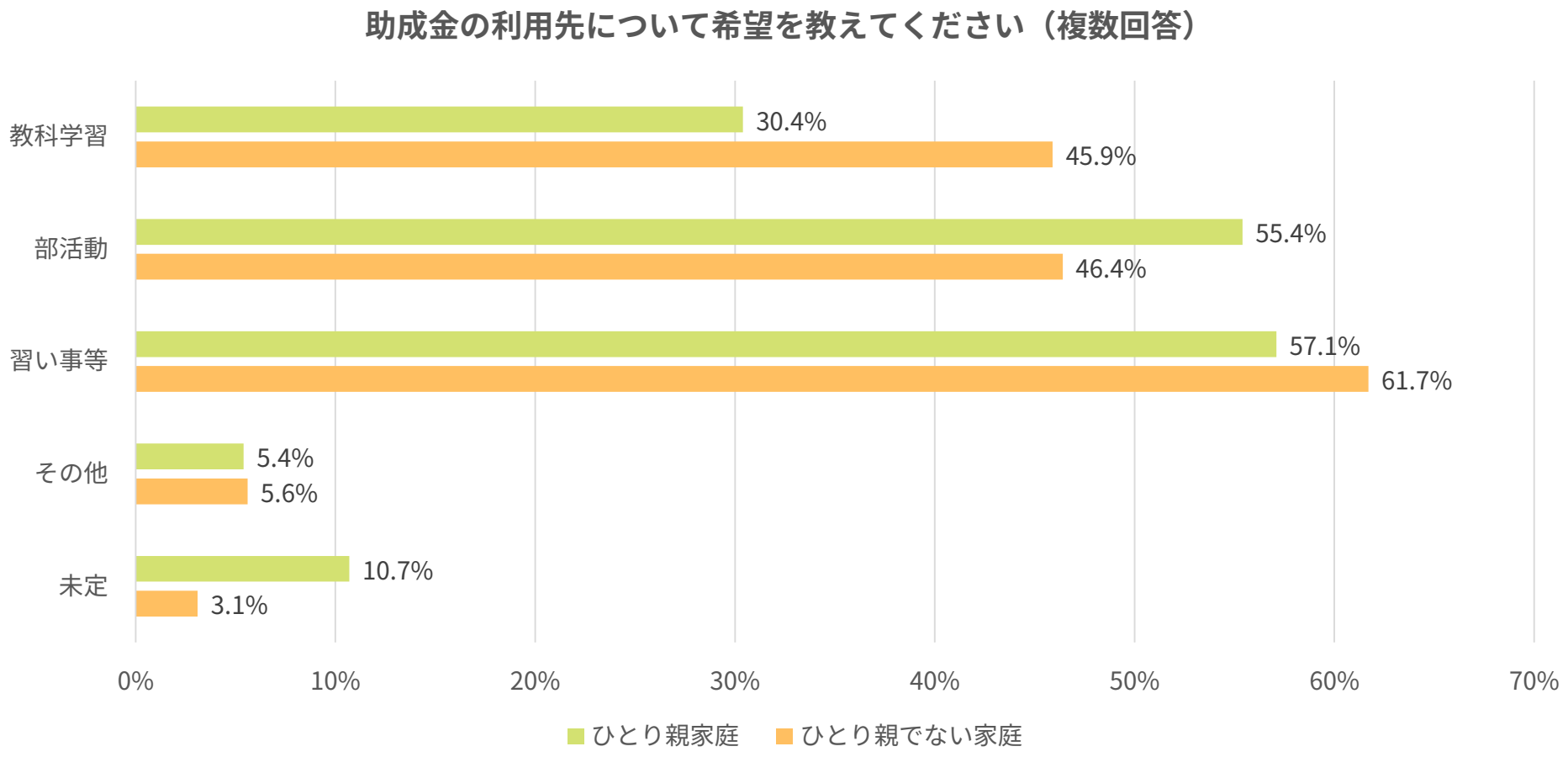


© Chance for Children

3-3. 助成金の利用希望先（家庭の状況別）

Chance for Children

✓ ひとり親家庭より、ひとり親でない家庭の方が、「教科学習」を利用希望先とした割合が高かった。



© Chance for Children

4．ヒアリング調査結果

地域の教育資源への影響

Chance for Children

✓ アンケート調査で明らかになった子どもの教育機会の減少に関して、ヒアリング調査でも多くの保護者から声が上がった。地域の習い事教室や学習塾の閉鎖、学校設備の被災や、転居による部活の参加者減等、地域の教育資源への影響が背景に存在すると考えられる。

保護者の声

・元々小学校6年間スイミングをしていて、中学生になったら地元のクラブに入る予定でした。しかし地震でプールが被災して、使えない状況になってしまったままです。

・習字教室に行っていましたが、地震で全壊となり、教室がなくなってしまいました。習い事がなくなってしまった子どもたちがほとんどだと思います。

・輪島ではピアノや英語も習っていましたが、地震の影響で先生が違う地域に行かれてしまい、出来なくなってしまいました。唯一陸上だけは続けられています。

・塾も、通っていた英語教室もなくなってしまいました。英語教室は金沢に移転して開校していて、避難して金沢に行った子は継続して通えているようです。

・地震があって部員もばらばらになり、部活がなくなってしまいました。それもあってか息子の元気がない様子。また、学校の運動場が仮設住宅になってしまい、部活動をする場所がなく、思うように運動できません。

© Chance for Children

住居の被災による勉強場所の減少

Chance for Children

✓ 学校や地域の教室の被災に加え、住家が被災したことによって、子どもの学習場所も減少しているという声が聞かれた。仮設住宅への転居や、親族の居宅への一時的な避難により、子どもが勉強に集中するための物理的なスペース・場所を確保することが難しくなっている。

保護者の声

・転居後のみなし仮設住宅のリビングには勉強机を置く場所もなかったですが、そこで勉強せざるを得ない環境でした。そのため集中できていない様子だったと思います。自宅に戻ってからも、年代的な影響もありますが、みなし仮設にいたときのペースからなかなか戻ることができず、勉強がはかどっているようには見えません。そのような中で、定期的に塾に通えているのは勉強の助けになっていると感じます。

・実家に避難していましたが、5家族くらいが一緒に暮らし、勉強する環境を確保することができませんでした。職場に連れていって、会議室などで勉強していました。そのような環境で、塾に通って少しでも勉強の時間を確保させてあげたいと思いました。

・地震前は地域交流センター（児童館のようなもの）で子どもたちは親の仕事が終わるまで勉強をしながら待っていたのですが、そこがボランティアセンターになってしまい、子どもたちの待機場所が無くなってしまいました。今は通っている塾が、その待機場所となっています。先生がとても面倒を見てくれて助かっています。

© Chance for Children

子どもの教育費用に関する悩み

Chance for Children

✓ アンケート調査で、教育資金の困りごとが最も多いことが明らかになったが、ヒアリング調査でも、中高生がいる家庭やひとり親家庭を中心に、被災による収入減少や、家屋の解体・修繕費用により子どもの教育資金の確保が難しいという声が聞かれた。

保護者の声

・5か月間は貯金を切り崩して自費でまかなっていました。これから当面の費用も考えて「塾に通わせられるかなあ」と言った時があり、子どもは資金面を心配しているようです。親の不安が伝わってしまったかもしれません。

・4年半前に事業を畳んで自己破産しています。生活再建中に起きた地震で資金面が心配です。日勤・夜勤制の仕事をしているので、月によって収入が安定せず、塾に通わせることは考えていません。娘のやりたいことはやらせたいので、部活で頑張っている卓球の用品を買ってあげたいです。（ひとり親家庭）

・収入が圧倒的に減少し、自宅にも住めなくなってしまったため転居しました。中学生になった子どもの部活用品が思ったよりも高額だったため助成金に申し込みました。塾は今は考えていないですが、今後もっと勉強が遅れてどうしようもないとなったら考えなくてはいけないかもしれません。

・家が全壊し、解体して建てるとなってもダブルローンになるし、いつになるか分かりません。子どもが輪島でやっていたピアノを金沢でもやりたいと言ったので教室を探しましたが、輪島の倍の値段で驚きました。

© Chance for Children

地域間格差に関する不安

Chance for Children

✓ 被災により他地域へ転居した家庭と、転居しなかった家庭があることで、被災家庭の中でも教育機会の地域間格差が拡大しているのではないかという漠然とした不安の声が聞かれた。

被災地に残った保護者の声

・学校が地震があってからしばらく休みで、いまだに面談などの理由で昼前に終わることもあり、今まで通り授業が進んでいるという感じではなさそうです。中学2年生132人中、30人近くが0点に近い点数を取っていたという話も聞きました。ニュースで都会の様子を見ても、遅れているのではないかと心配になります。勉強はさせないと、と思っています。

・珠洲市には高校はあるけれど、大学のような高等教育機関はありません。進学するなら金沢などに行かなくてはなりません。金沢は歩いて塾に行けるし、様々な学習機会へのアクセスがあると、地震後に金沢に避難した人たちから話を聞くようになりました。転居させられないのは親の都合で申し訳ないですが、出来るだけ差がないようにしてあげたいと思っています。

・地震の影響で家にいても落ち着かないだろうし、他の子も勉強しているところにいければはかどるのでは、と思いますが、七尾市には学習できる空間が少ないんです。金沢に連れて行ったときは、県立図書館も規模が全然違って、自習のスペースもたくさんあって「いいなー」と言っていました。そのような意味でも、塾の存在はとても大事、と感じています。

© Chance for Children

参考：保護者の声

※アンケート調査の記述欄およびヒアリング調査でいただいた声をまとめています。

保護者の声（小学生がいる家庭）

Chance for Children

子どもとの新生活に関わる声

- 震災前と変わらない生活をさせてあげたいと考えていて、家が変わるという大きな変化があったため、せめて習い事は元々やっているものを続けさせたい、と考えている。
- 仕事先の飲食店が全壊で仕事も前のようにできなくなり、現在金沢でも条件に合う仕事が見つかっていません。子ども2人とも輪島で水泳に通っていましたが、地震後に閉鎖。金沢で水泳に通いたいと言っているけれど、金額も輪島の倍以上でなかなか難しいです。
- 学習意欲が下がっている・遅れている感じはあるが、とにかく今は新しい環境に慣れることを優先したい。そのために今までやっていた習い事を続けて楽しく過ごしてほしい。
- 子どもたちは金沢よりも地元の輪島の方がいい、と言っています。でも、輪島の話をしても現実的に考えて帰ることは無理なので「帰りたいか」という話は絶対にできません。このような状況で、何を犠牲にするかとなると、子どもなんです。仕事は輪島まで通っているので、帰るのは遅くなり、子どもたちだけで過ごさせてしまっています。ずっと一緒だった地元の友達とも離れ離れになってしまいました。様々な環境の変化に慣れるのにとても時間がかかっている様子です。そのような状況なのに一緒にいられないことが辛いです。
- 子どもが3人いるので、仮設住宅という選択肢は考えられませんでした。金沢で中古物件を探していますが、輪島の家のローンも残っており苦しい状況です。子どもの習い事の送迎と仕事の兼ね合いで大変ですが、ここで私が弱音を吐くわけにはいかない、とこらえています。

© Chance for Children

保護者の声（中学生がいる家庭）

Chance for Children

中学入学等に際しての部活用品購入に関わる声

- 中学1年になり、部活動が始まります。「野球部に入りたい」と言っていたのですが、「お金かかるよね」と。「大丈夫だよ、心配いらないよ」と話しましたが、自宅が全壊しこれから先、どれだけお金がかかるか見当もつきません。

- 震災で家が住めなくなり、家族がバラバラになりました。娘は親戚の家から中学校に進学しましたが、新入生のため部活用具を一式揃える必要があります。また、しばらく学校に通えなかったため、授業についていけず、塾にも通わせたいけれど資金がないと思っていました。

- 新中学校で野球部に入部予定です。学童で使用していた道具類が津波で流されたため、部活動に必要な野球用具等、またユニフォームなどを（助成金で）購入します。

高校進学に関わる声

- 仕事も1カ月出来ず無収入でしたが、そのような理由で子どもに我慢させたくありませんでした。勉強があまり得意ではない方なので、塾に通えないと高校受験の際に志望校が目指せなくなってしまうと思いました。

- 被災により数ヶ月勉強が遅れたので、受験に影響が出そうなので、塾へ通わせようと思っている。

© Chance for Children

保護者の声（高校生がいる家庭）

Chance for Children

高校入学・転校に際しての部活用品購入や部活引退に関する声

- 仕事を失い経済状況は激変し、今後の事を考えると不安ですが、子どもには充実した学校生活を送って欲しいと思い（助成金に）応募しました。転校先で勇気を出して部活動に入部した子どもを応援したいです。
- 慣れない環境でのストレス、両親の収入の激減の不安があります。娘が高校に入学し陸上部に入部したため、ユニフォームやウィンドブレーカーの購入に（助成金を）使いたいです。
- 義援金もなかなか入らず仕事もなく生活に困る中、部活での遠征が決まった。高校3年生で最後の遠征かもしれないので行かせてあげたいが、余裕がないので（助成金に）応募した。

大学進学に関する声

- 受験生の長女が通っていた学習塾が、震災後に廃業してしまったうえ、震災直後は勉強どころではありませんでした。現在は通う塾がないので自宅で勉強していますが、学力が志望校レベルにあるのか心配しています。
- これから自宅を補修もしくは解体するのを知っているため、息子はお金がかかることに遠慮して、進学希望でしたが、「（進学するか）悩んでいる」と言われ、申し訳ない気持ちです。
- 子ども部屋が震災で使えなくなり、台所で勉強している状態です。使えない部屋は解体し、新しく子ども部屋を建てようかと考えていますが、本人が大学進学を希望しており、これからの資金繰りに不安を感じていたので、（助成金に）申し込んでみようと思いました。

© Chance for Children

付録：アンケート設問

アンケート設問

Chance for Children

【問1】現在のお住いについてあてはまるものを選択してください。
(1)1次避難所（公民館・学校など）・1.5次避難所
(2)2次避難所（旅館・ホテルなど）
(3)応急的な住まい（仮設住宅・みなし仮設など）
(4)震災前と同じ自宅
(5)震災前と別の自宅
(6)親族・知人の家
(7)その他

【問2】助成金の利用先について希望を教えてください。（複数回答）
(1)教科学習（学習塾・家庭教師・通信教育など）
(2)スポーツ（サッカー教室・水泳教室・ダンス教室など）
(3)文化活動（ピアノ教室・音楽教室・絵画芸術教室など）
(4)体験活動（野外活動・社会体験など）
(5)部活動（破損した用具の購入・遠征費用など）
(6)その他（フリースクール・発達支援や療育など）
(7)まだわからない

【問3】問2の利用先について、具体的な使い道が決まっている方は入力してください。（自由記述）

【問4】お子様の教育機会について、震災以降減少したものを教えてください。（複数回答）
(1)学校の授業
(2)学校行事
(3)学校での部活動やクラブ活動
(4)学習塾や家庭教師等での学習
(5)習い事や地域でのクラブ活動
(6)地域行事やイベントへの参加
(7)友人との遊び
(8)特にあてはまるものはない

【問5】震災以降に感じている、お子様についての困りごとがあれば教えてください。（複数回答）
(1)子どもの発育や健康に関すること
(2)子どもの気分の落ち込みなど心の健康に関すること
(3)子どもの教育資金（学費、進学費、学校外教育費等）に関すること
(4)子どもの学力や成績に関すること
(5)子どもの進路や進学に関すること
(6)子どもと家族との人間関係に関すること
(7)子どもと家族以外の人との人間関係に関すること（友人、学校の先生等）
(8)不登校または学校に行きたがらないこと

【問6】本助成金への応募動機を教えてください。（自由記述）

【問7】その他、震災以降の生活の変化や困りごと、事務局に伝えておきたいことなどがありましたら教えてください。（自由記述）

© Chance for Children

本報告書の制作について

Chance for Children

お問合せ

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン
東京都墨田区錦糸1丁目11-1ノイエヤマザキ5階
TEL：03-5809-7394　E-mail：info@cfc.or.jp
HP：https://www.cfc.or.jp/

※本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は必ず出所：公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンと明記してください。本資料の全文又は一部を転載・複製する場合は、著作権者の許諾が必要ですので、当法人までご連絡ください。